

南青協便り 第232号



南米産業開発青年隊協会会報

2025年4月10日発行

Boletim n.232 Seinentai do Brasil : Edição 10 de Abr. de 2025



2月16日の総会・新年会懇親の様子です。楽しかったです。



目次(第 232 号) ÍNDICE (n. 232)

一、表紙： 上、2月16日の総会・新年会の記念撮影です。	
： 下、同日の懇親会の様子です（4期曾我義成） 1
一、Índice 目次 2
一、これも総会と懇親会の写真です 3
一、総会・新年会の挨拶です	会長 渡辺進 4
一、2024年事業報告、2025年行事予定	会長 渡辺進 5
一、お知らせ	ディアデーマ 4期 曾我義成
Aviso	Diadema, 4ª.Turma Yoshinari Soga 6
一、会計報告 2月の残高 6
一、会計報告 1・2月分	サンパウロ 8期 長田譽歳 7
一、ブラジル日報からメールと総会の新聞記事を頂きました。	
	編集委員 志方進 8
一、「人数少ないが同じ釜の飯食った仲」南米産業開発青年隊協会が総会	
	ブラジル日報 深澤正雪 8~9
一、あるおばあちゃん達の方法	
	ポルトガル10期 岡井よししげ 10~12
一、O Segredo das Avós Portugal Yoshishigue Okai(10ªTurma)	12~14
一、自分史(52)	ポルトガル 10期 岡井よししげ 15~17
一、「南青協便り」編集委員の皆様	千葉県松戸市 鋸屋大志 18
	<small>さたけむねゆき おがやまさる</small>
一、佐竹宗之氏夫妻と鋸屋 勝 氏夫妻の写真、佐藤卯吉氏が加わった	
写真 19
一、挨拶文	佐藤卯吉 20~21
一、センチメンタルジャーニー	佐竹宗之 21~30
一、アメリカ第一主義	サンパウロ 9期 貝田定夫 31~33
一、国際援助と言う名の無駄遣い	9期 貝田定夫 34~35
一、ブラジルの建設工事に参加して	
	ジュンジアイ 9期 荒木昭次郎 ... 36~38
一、この頃思うに	イグアスー 単独 齋藤信夫... 39~40
一、最近のイグアスの滝とア国への橋、パラグアイへの新しい橋	
	イグアス 単独 齋藤信夫 41~42
一、フォス・ド・イグアスからパラグアイへ向かう1960年代の橋....	43
一、見失った人生	サンパウロ 8期 長田譽歳 44~46
一、富士山に雪と春カスミ 47
一、【編集委員】【次号予定、お願い】【編集後記】 48

これも総会と新年会の写真です



総会後の懇親会の別の写真です。



この頁の写真は2月16日の総会の様子取材していただいた
ブラジル日報の深沢正雪編集長が送ってくださったものです。

2月16日の総会・新年会での挨拶です

会長 渡辺進

本日は総会新年会に出席いただきありがとうございます。

事業報告と重なりますが、南青協便りの発行、慰霊碑清掃、慰霊祭、毎月の月例会、そして今日こうして皆さんに出席していただいている総会・新年会と、2024年の事業を元気に明るくこなすことができました。

新隊員が入隊しない南米産業開発青年隊でありますので、先細りは仕方がありませんが、そんなことは考えてどうなるものではありません。

この与えられた状況で1年間、元気に楽しく過ごした2024年でした。日本では能登の大地震、さらには大雨での大洪水と大変な災害が起こりました。南米産業開発青年隊からも義援金を送ることができました。

できることを無理しないで2025年も仲良く、こなしていきましょう。



2024年の事業報告と2025年の行事予定です

会長 渡辺進

2024年の事業報告

- 1) 2月18日に総会、新年会。
- 2) 2か月に1度の南青協便りの発行。
- 3) 8月24日に曾我さんと早川さん頑張っていたいただいた慰霊碑の清掃。
- 4) 9月15日に盛大に慰霊祭が開催されました。
- 5) 毎月第3土曜日に集まって元気な声を確かめ合う月例会。

以上を元気に明るくこなすことができました。大変ご苦労様でした。

2025年の行事予定

- 1) 総会新年会—2月16日(日)
- 2) 慰霊碑清掃—7月19日(土)
- 3) 慰霊祭—8月24日(日)
- 4) 2か月毎の南青協便りの発行
- 5) 毎月の月例会、
- 6) 会員の提案事項及び審議

南米産業開発青年隊の歴史ストーリーをポルトガル語で残して青年隊子弟に読んでもらい、親父や爺ちゃんの歴史を残したらどうかとの提案がありました。皆さんの意見を聞き、賛成の場合、編集委員を選ぶことにする。



次のとおりお知らせします。

【ご逝去】 7期204番 佐野勝也氏 2016年5月4日にご逝去。

奥様は亡くなっておられますので、ご遺族は長男の浩樹様です。

【電話番号変更】 渡辺敏子氏（故6期119番渡辺次雄氏夫人）の電話

番号は（11）4233-2407になりました。

AVISO

Diadema, Yoshinari Soga (4ª.Turma)

【Falecimento】 Sr. KATSUYA SANO (7ª.Turma n.204) foi falecido em 04/maio/2016. Como já tinha falecida a senhora, o descendente é o primeiro filho Sr. HIROKI SANO

【Alteração No.Tel.】 O novo número telefónico da Sra. TOSHIKO Watanabe (A viúva do Sr. Tsugio Watanabe) é (11)4233-2407

X-----X-----X-----X-----X

南青協会計報告（1月分と2月分、詳細は次ページ）

2月の残高

<i>Bradesco 支店番号と口座番号</i> <i>Extrato Conta Corrente</i> <i>Takatoshi Osada</i> <i>Agência 1480</i> <i>Conta 0033226-7</i> <i>Disp. P / Poupança</i>		<i>Agência 1480</i> <i>Conta 33226-7</i> <i>Takatoshi Osada</i> <i>CPF 698. 506. 588-00</i> <i>CEP 04371-000</i> <i>Cheque の送り先</i> <i>Takatoshi Osada</i> <i>Rua Rishin Matsuda, 467</i> <i>VI. Sta. Catarina</i> <i>Jabaquara - SP</i>
残高 Saldo em 28/Fev/2025	23. 101, 04	

南青協月間会計報告（1月分）

2025年1月31日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	12月より繰越分			23.748,84
30/Jan	会報 231号 Cópia	600,00		
31/Jan	会報 231号 Correio	652,90		
	Rendimento		158,78	
	Total	1.252,90	158,78	22.654,72

南青協月間会計報告（2月分）

2025年2月28日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	12月よりの繰越分			22.654,72
14/Fev	総会新年会飲み物	232,28		
14/Fev	新年会食事備品	561,40		
14/Fev	総会新年会食事	1.560,00		
16/Fev	総会新年会宮崎県人会サロン	200,00		
16/Fev	年会費 1次池辺治男氏(9)		200,00	
16/Fev	年会費 1期大島ルイザ・ヒロエ氏(29)		200,00	
16/Fev	年会費 4期攝津静氏(85)		200,00	
16/Fev	年会費 4期曾我義成氏(83)		200,00	
16/Fev	年会費 5期菊地義治氏(89)		200,00	
16/Fev	年会費 6期森慈美氏(103)		200,00	
16/Fev	年会費 6期温水昌介氏(132)		200,00	
16/Fev	寄付 6期温水昌介氏(132)		200,00	
16/Fev	年会費 6期盆子原国彦氏(143)		200,00	
16/Fev	年会費 7期吉田茂治氏(160)		200,00	
16/Fev	年会費 8期早川量通氏(214)		200,00	
16/Fev	年会費 8期長田譽歳氏(237)		200,00	
16/Fev	年会費 8期山木源吉氏(238)		200,00	
16/Fev	年会費 9期田浦之助氏(269)		200,00	
16/Fev	年会費 10期後渡辺進氏(309)		200,00	
	Rendimento			
	Total	2.553,68	3.000,00	23.101,04

ブラジル日報からメールと総会の新聞記事を頂きました
わざわざ横書きにして、送っていただきました。 編集委員 志方進

志方様

以下の通り、記事の文面を貼り付けました。

本紙は、読者が高齢化でどんどん減っており、今年中に廃刊してもおかしくない状況です。

ひとりでも多くの青年隊の方が、読者になってくれることを願っております。よろしくお祈りします。

深沢 拝

「人数少ないが同じ釜の飯食った仲」
＝南米産業開発青年隊協会が総会

ブラジル日報 2025 年 2 月 26 日

南米産業開発青年隊協会（渡邊進会長）の定期総会と新年会が 16 日午前 10 時からサンパウロ市の宮崎県人会で開催され、会員 11 人とその家族ら計約 18 人が出席した。昨年は病欠が目立ち出席隊員は 7 人だったが、今年は増えた。最初に先没者の御霊に 1 分間の黙とうを捧げた後、早川量通（かずみち）さんが司会兼書記に選ばれた。

青年隊は 1956 年から全 326 人が当地に送り込まれ、うち 150 人前後が冥土に旅立ったが、100 人には現在も連絡が取れ、70 人が会費を納入しているため会報が郵送されている。

渡邊会長が開会の辞で「新隊員が入隊しない南米産業開発青年隊でありますので、先細りは仕方ありません。しかしそんなこと考えてもどうにもなりません。できることを無理しないで、2025 年も仲良くこなしていきましょう」と述べた。

24 年度活動報告では渡邊会長が総会、月例会、慰霊碑清掃、慰霊祭、会報発行が活動の 5 本柱と前置きし、「青年隊事業を元気に明るくこなせた。大変ご苦労様でした」と感謝した。

長田譽歳（おさだ・たかとし）さんから24年度会計として38人から会費、二人から寄付を受けた結果、残高2万3748リアルだったと報告された。今年も会費は年200リアルに維持する提案が出され、拍手で承認された。

25年度活動予定として7月19日（土）の慰霊碑清掃、8月24日（日）の慰霊祭、2カ月ごとの会報発行、毎月第3土曜日の月例会が提案され、承認された。長田さんから25年度予算として「前年と同じ」と提案され、承認された。

役員選挙も行われ、渡邊会長自ら「今やっている人ができるだけ続けましょう」と提案し、承認された。来年が創立70周年でもあり、曾我義成（そが・よしなり）さん（4期）から「子孫に青年隊の歴史を残すためにポルトガル語小冊子を作ったらどうか」と提案があり、「すでに立派なポルトガル語日本移民史はある。青年隊も大体同じような歴史だから、特別なものを作る必要はないのでは」「誰が書くのか」などと異論も出て、曾我さんを中心とした委員会メンバーが決められ、議論を続けることになった。

最後に盆子原国彦さん（6期）が青年隊の誓いを読み上げ、出席者全員で「産業開発青年隊歌」を歌った。閉会の辞をブラジルから参加した吉田茂治（しげじ）さん（7期）が「昨年出席したのは7人だったが、今年は11人も来てよかった」と喜び、最後に菊地義治さん（5期）が「昨年の慰霊祭には家族の若い人がたくさん参加してくれ良かった。今年も皆で若い人に呼びかけましょう」と語った。

カンピーナス市在住の山木源吉さん（8期）は「新年会で皆と顔を合わせるのが楽しみ。青年隊は人数こそ少ないが、ウマラマの訓練所で同じ釜の飯を1年余り食べたから、仲間意識が強い」と笑顔を浮かべた。

青年隊は農家の二、三男を技能者として養成し、戦後復興のために役立てようと建設省により作られた制度で、その一部326人がブラジルへ送り込まれ、農業を始め建設、通信、測量等の分野で当地の国土開発に貢献した。



あるおばあちゃん達の健康法

ポルトガル 10期 岡井よししげ

ほとんどの青年隊員は80歳を超えていると思います。

私は健康治療家として60年以上薬や注射やワクチンなどにお世話になっていません。コロナワクチンなんてとんでもないです。日本やポルトガルではこの寒さで流感や風邪でバタバタと異常なほど死者が多いと言われて、それもワクチンをしていた人達です。

厚生省などはその実態を明かしていません。一体行政はどうなっているんですかね？ 流感なんて怖がるのがストレスになって悪くなるのです。問題は簡単です。各自の体内の免疫力を保っていれば何も恐れることはないのです。健康な人はそれぞれの健康法を知っています。

薬を使わないで健康でいられる人が10人いれば10人の健康法があるのです。以下の文を参考にして、お金が掛からない自分の健康法を探してください。

① 健康な90代のおばあちゃんたちの秘密

ある機械（メタトロン）を使って健康診断をしたら、何千人の中で、健康に全く問題がない人が2人いました。それが、90代の2人のおばあちゃんでした。

→ どうしてそんなに健康なの？

2人とも、毎朝と寝る前に「自分の体のすべての部位に感謝している」ことが共通点でした。

たとえば…

- 朝起きたら：「足の親指さん、ありがとう。ふくらはぎさん、ありがとう。心臓さん、今日も動いてくれてありがとう。」

- ・ 寝る前も：「今日も1日ありがとう。」

この習慣を毎日続けていたことで、どこも悪くならず健康でいられたそうです。

② イメージの力で体がよくなる！？

おばあちゃんの1人は「目が疲れたら、ブルーベリーを目に入れるイメージをする」だけで、目の疲れが取れると言っていました。

つまり、「体に良いことを想像するだけで、本当に良い影響がある」ということです。

③ 体の痛みを消す驚きの方法

ある整体師さんが、長年「左の肩甲骨が痛い」という悩みを持っていました。

そしたら、先生に「体の部位はいくつ言えますか？」と聞かれ、整体師さんは「300くらい」と答えました。

すると先生は…

- ・ 「じゃあ、残りの299か所は元気に動いてるわけですね？」
- ・ 「その299か所に感謝したことはありますか？」

整体師さんは、別の部屋で1つ1つの体の部分に「ありがとう」と言いました。

すると…長年の肩甲骨の痛みが消えたというのです！

→悪い部分ではなく、元気な部分に目を向け、感謝すると、痛みが消えることがある！

④ これは日常生活にも使える！

体だけでなく、普段の生活でも同じことが言えます。

- 「お金が足りない」「仕事がつらい」など不満ばかりに目を向けるのではなく、
- 「今日もご飯が食べられる」「家がある」「友達がいる」などすでに持っている幸せに感謝すると、
- 心が豊かになり、人生が良い方向に変わる。

まとめ

- ① 体のすべての部分に「ありがとう」と言うと、健康になれるかも！
- ② 良いイメージをするだけで、体が良くなることもある！
- ③ 不調ばかりを見るのではなく、元気な部分やうまくいっていることに感謝しよう！ この考え方を続けることで、心も体も健康になれるかもしれませんね！ 😊

O Segredo das Avós Portugal Yoshishigue Okai (10ª.Turma)

① O Segredo das Avós de 90 Anos Super Saudáveis

Foi usado um aparelho especial chamado Metatron para analisar a saúde de muitas pessoas.

Entre milhares de exames, apenas duas pessoas não tinham nenhum problema de saúde.

Essas duas pessoas eram avós com mais de 90 anos!

→ Qual era o segredo delas?

Ambas tinham um hábito especial: agradecer a cada parte do corpo, todas as manhãs e todas as noites.

Por exemplo:

- Ao acordar: "Obrigado, dedo do pé. Obrigado, panturrilha. Obrigado, coração, por bater hoje também."
- Antes de dormir: "Obrigado pelo dia de hoje."

Elas faziam isso todos os dias, e nenhuma parte do corpo delas estava doente!

② O Poder da Imaginação para Curar o Corpo

Uma dessas avós fazia algo muito interessante:

Quando seus olhos ficavam cansados, em vez de tomar remédios, ela imaginava que estava colocando mirtilos (blueberries) nos olhos.

Apenas essa visualização fazia com que sua fadiga ocular desaparecesse!

Isso mostra que o corpo pode reagir de forma positiva apenas com o poder da mente.

③ Como Acabar com a Dor Apenas com Gratidão

Um terapeuta de shiatsu sofria há anos com dor na omoplata esquerda e perguntou o que poderia fazer para aliviar essa dor.

O professor perguntou:

- "Quantas partes do corpo você consegue nomear?"
- Ele respondeu: "Cerca de 300."
- Então o professor disse: "Se sua omoplata dói, isso significa que as outras 299 partes do seu corpo estão saudáveis, certo?"
- "Você já agradeceu a essas 299 partes?"

O terapeuta foi para outra sala e começou a agradecer uma por uma.

Depois de cerca de 1 ou 2 horas, voltou chorando de emoção, porque sua dor desapareceu completamente! → Quando focamos no que está bem e agradecemos, o corpo responde positivamente.

④ Como Isso se Aplica à Nossa Vida?

Isso não se aplica apenas ao corpo, mas também à nossa vida diária.

- Muitas pessoas focam apenas no que falta: "Não tenho dinheiro suficiente", "Estou cansado",
- "Meu trabalho é difícil"...
- Mas se mudarmos o foco para o que já temos: "Tenho comida", "Tenho casa", "Tenho amigos",
- "Tenho saúde", podemos sentir mais felicidade.

→ Quando agradecemos pelo que já temos, nossa vida melhora!

Conclusão



Agradecer a cada parte do corpo pode melhorar a saúde!



Visualizar algo positivo pode ajudar o corpo a se curar!



Em vez de focar no que está ruim, olhe para o que está funcionando bem e seja grato!

Se praticarmos isso todos os dias, podemos ter uma vida mais saudável e feliz! 😊



お釈迦様は言いました。

「食欲（どんよく）」「瞋恚（しんに）」「愚痴（ぐち）」を略して「貪（とん）」「瞋（じん）」「痴（ち）」と呼び、これを三毒といいます。

食欲と愚痴の意味は理解していましたが、瞋恚（しんに）という言葉は聞いたことがありませんでした。調べてみると「怒り」を意味する言葉であり、怒りやすい人は欲が深いとも言われています。

何を伝えたいかという、かつて指圧治療所を6か所も経営していましたが、すべて乗っ取られてしまったということです。私「よっちゃん」は夢や希望を持ち、それに向かって努力していましたが、あるスタッフの人物Nは欲を持つこと自体は悪くないものの、後から考えると非常に貪欲な人間だったのです。そのため友人もできず、結婚して娘二人に恵まれたものの、毎日ストレスを抱え、イライラしていたのではないかと思います。

案の定、彼は5年後に自動車事故で亡くなりました。奥さんは「朝起きたら、彼がパソコンに頭を置いたまま亡くなっていた」と話していましたが、それが事実かどうかは分かりません。結果は嘘とわかったのです。

その奥さんも、とても嘘つきで、ある時奥さんと主人（N）を「よっちゃん」の家に仕事を任せている関係上食事に招待して、その苦勞をねぎらうためでした。その時に楽しいひと時の写真を撮ったのです。

所がしばらくしてある友人が「よっちゃん」に言うには兄夫婦を食事に誘っていながら階段に待たせて家に入れさせて貰わなかったと言っているけど本当かよ！と訊ねてられたので、「冗談じゃないよ」と、例の一緒に撮った楽しい写真を見せたらたまげていました。一体どうなっているのだろうと彼ら達にその友人も不信感を持ち始めました。

彼 N は最も信頼していたソシオの弟であり、会計士でもあったため、指圧の仕事以外にも会計を任せていました。しかし、それが仇となりました。以前から違和感はありましたが、N の兄から何の連絡もなく、普通に生活していたため、疑うことはありませんでした。結果的に兄弟ぐるみで私を欺いていたのです。

この話を詳しくすると長くなるし、頭に来るので簡単にまとめますが、最終的には完全に乗っ取られ、ブラジルにあった財産もすべて失いました。現在の金額に換算すると、治療所の価値、会社の蓄え、個人的に管理を任せていた資産を合わせて約 40 万～50 万ドルに相当すると思います。

弁護士に依頼しましたが、経費ばかりかかり、埒が明かないため、すべてをきっぱりと諦め、ポルトガルで前を向いて進む決心をしました。幸い、ポルトガルでの指圧治療の仕事は順調で、昼のテレビ番組に何度も出演したり、新聞やラジオにも取り上げられたりしました。ポルトガルには指圧治療がなかったため、珍しさもあって評判となりました。

スタッフも増え、ある時は 1 日 8 時間に私ひとりで 33 人もの治療を行ったこともあります。1 人あたりの治療時間は 10 分から長くても 15 分でした。今思えば良くやったな～と自分ながら感心しています。

他のスタッフも 1 日平均 12～15 人を治療し、お互いに大いに収益を上げることができました。ポルトガルでは指圧というものが知られていなかったため、私は「日本で生まれた世界の発明」として普及させることが自分の使命だと実感しています。

ポルトガルに移住して 38 年が経ち、孫は 7 人いますが、ひ孫にはまだ恵まれていません。今の若い世代は結婚に消極的なのか、経済的な理由で自分たちの人生をより有意義に過ごしたいのか、それとも独身生活を楽しまたいのか分かりません。

私は 1939 年生まれで 86 歳、青森市生まれの岡井家の四男です。父は腸がんで 77 歳で亡くなり、母は胆のうがんで 68 歳、長男は肺がん、弟は

腸がんで死亡しました。次男の兄は糖尿病で亡くなり、すぐ上の兄とすぐ下の妹は戦時中の栄養失調で亡くなっています。現在、長女の姉は92歳で、妹、弟、私を含め、9人兄弟のうち4人が健在です。

戦時中、私は国民小学校に通い、帳面の代わりに石盤（せきばん）を使って学習していました。石盤はスレートと呼ばれる薄い黒色の石で作られ、周囲には木枠が付いているのが一般的でした。この石盤に蠟石（ろうせき）製の石筆で文字や絵を書き、布で拭き取ることで何度でも繰り返し使用できました。

石盤は明治時代から昭和初期にかけて日本の学校で広く使われ当時、紙は高価で貴重だったため、石盤は経済的で実用的な筆記具として重宝されていたのです。しかし、石盤は重く、割れやすいという欠点があり、衛生面での問題も指摘されていました。そのため、鉛筆やノートの普及とともに次第に使われなくなっていきました。

時々、私は学校で花丸をもらい、それを布で作った鞆に入れて家に帰ると、母に見せるのが楽しみでした。しかし、母が見た時はその花丸は、半分以上消されてしまうこともありました。そんな戦時中の思い出が今でも時折、よみがえります。

以上で「よっちゃん」の自分史をひとまず終了させていただきます、どうして「よっちゃん」はポルトガルに行ったのかとブラジルに行く度に聞かれるので、自分史として書かせて頂きました。

10人いれば10人のそれぞれの人生があり、山あり、谷ありです。残りの人生を人の役に立たせて頂くように頑張らないで自分のペースで気長にやっていきたいと思っています。

長い間でしたけれど愛読して頂き誠にありがとうございます。これからもブラジルの思い出なども語っていききたいと思っていますので楽しみ？にしてください。チャオ～！



「南青協便り」の編集委員の皆さま

千葉県松戸市 鋸屋大志

はじめまして。鋸屋大志（オガヤタイシ）と申します。

急な連絡で悲報をお送りすること大変恐縮ですが、ご了承くださいませ。

父・鋸屋勝が先月1月24日に亡くなりましたので、

その知らせをしたくメールした次第です。

この会については、定期的に届く会報で知ることができました。

過去の数年分の会報を部屋の本棚に入れて保管していることから、

本人は、とても興味をもって拝見していたのだろうと想像しています。

生前は大変お世話になりました。ありがとうございました。

私にとって父はグローバルな視点を持ち、ボランティア精神に溢れた

質実剛健を絵に描いたようなカッコイイ人でした。

以上でございます。



【編集備考】

鋸屋勝様は佐竹宗之様と共に2006年に南米産業開発青年隊50周年大会に出席されました。下はその会場内の表示幕です。



次ページは当時のお二人の写真です。

さたけむねゆき

おがやまさる

佐竹宗之様ご夫妻と鋸屋勝様ご夫妻、その他



佐竹宗之様から頂いたカラー写真です。在りし日の鋸屋夫妻とのお付き合いのスナップ写真だそうです。

下の写真は会報第 112 号(2006 年 11 月 2 日)に掲載されたもので、前ページの写真と共に長田編集委員から送信してもらいました。



佐竹氏の自宅で、左から佐竹宗之氏、佐藤卯吉氏、鋸屋 勝氏

佐藤卯吉氏の挨拶文

佐藤卯吉氏は東北中央隊の補導員だった方で、1964年（昭和39年）に訪伯されました。その時のお礼などを記されたものです。なお、南米産業開発青年隊50周年記念式典は2006年に行われました。

最後に

昭和39年の訪伯中現地視察のため、いろいろ取りはかって下さった関係者及び領事館、事業団ほか面談に応じて語り明かしてくれた隊員各位始め道案内を引き受けてくれた盆子原国彦氏、近藤次夫氏、今は亡き久万浩氏そして菊地章氏には特にお世話になりましたことをあらためて深く感謝いたします。

この度の記念大会準備のため大役を進めておられる実行委員の皆様がたのご苦勞を謝すると共に、訪日の折り、私との面談を希望されのに一時体調を悪くしてお会いすることが出来なかった8期の早川さんに失礼いたしましたことを心からお詫び申し上げる次第です

青年隊OB会の副会長で手広く九州で事業をやっておられる光森氏そしてブラジルからの帰国組の佐竹氏が今回の南米産業開発青年隊「50周年」記念式典のことでいろいろなブラジルの南青協と連絡を取り合い、20名余の訪伯団をまとめつつあることを知り、ご苦勞様と申し上げたいです。

「南青協便り」に佐竹氏が記事を投稿してくれて、私の消息をブラジルに居る皆様に知らせていただきました。それが縁でブラジルの旧知、同船の方からお手紙を頂き、温かい励ましの言葉ありがとうございました。想いですが、同船移住した方々との船上パーティーで誓いあったあの言葉「私達は青年隊で人の温もりを知りました。苦しい時も、楽しい時も、また悲しい時も力を合わせて友情の絆をしっかりと結び合い、ともにたくましく進むこと」……あらためて誓いますので今後もよろしくお願いします。

そうした旧知の方や同船の方の消息を知った反面、誠に残念で辛い事ですが南米産業開

発青年隊協会発行の名簿や「南青協便り」で確認できた物故者の方々の名をたくさん知る事となりました。その内容は病死、事故死あるいは^{こころざし}志半ばでの非業の亡くなり方と様々の様ですが衷心よりご冥福をあらためて祈ると共にご遺族の皆様にも深く哀悼の誠をささげます。

久方ぶりにブラジルに渡った隊員仲間の面影を想いだしながら、諸君等のこれからの益々のご活躍とご家族の皆さんの幸せとご繁栄をはるか日本より祈ってます。

そして「南米産業開発青年隊「50周年」記念式典大会」が無事に盛会で且つ成功のうらに終了をすることを祈りつつペンを置きます。

2006年 盛夏の東京にて 佐藤卯吉

【センチメンタルジャーニー】

日本 7期 佐竹宗之

会報第112号（2006年）を写真コピーしたものです。（編注）

【センチメンタルジャーニー】 感傷と感激のブラジル小旅行

在日本 7期生 佐竹宗之

まえがき

今、手元にある記念大会の事を報じたサンパウロ新聞とニッケイ新聞を見、そして400数十枚以上あるデジタルカメラによるスナップ写真を見て、あらためて、この度の南米産業開発青年隊50周年記念大会に参加して良かったと未だ感激の余韻に浸っている状態である。

あの大会を盛会裏に終わらせた牧会長始め、早川副会長、長田会計、そしていろいろと骨をおった係りの諸兄にあらためてご苦労様と同時に感謝の気持ちを申し上げたい。

特に私個人的にはブラジル国内航空線だけで7回の発着、そしてオニブスの2回の発着の度に送り迎えの労を取っていただいた盆子原氏と早川氏。そしてペロオリゾンテの荒木氏、クリチーバの坂本氏にあらためてお礼を申し上げたい。その他にも表題にした「センチメンタルジャーニー」を予定以上に充実したものにしてくれた先輩や仲間、特にスザノの鮫島さん、モジの西堀さんにはこの紙面を借りてお礼を申しあげたい。

さて「南青協便り」の事務局からの指示でこの紀行文を出来たら3～4ページに収めてくれいので駆け足で、この度の表題「センチメンタルジャーニー」＝感傷と感激の旅＝を進めて行くが恐らく7～8ページ以上にはなるのでは。

出発前のあわただしさ

出発前の準備の話としてはやはり佐藤卯吉氏のことからどうしても触れておかななくてはなるまい。今年に入って佐藤卯吉氏から、昔の青年隊の様子を記録した古い8ミルフィルムがあることを知らされ、南青協の事務局の了解を得てこの8ミルフィルムをDVD化して前夜祭あたりで大型テレビに放映することになり、先ず8ミルフィルムをDVD化する業者を捜し、フィルムを調べてもらった所、何とかDVD化はできるというのでしてもらったがそれからが大変だった。なにせ40数年前のフィルムで被写体がランダムに入っているので、私の友人の力を借りて私のパソコンで編集できるソフトを捜してもらい、五十どころか六十の手習いで何とか曲がりなりにも11本の小話にまとめ、佐藤卯吉氏には二度ほど拙宅まで来ていただき、大げさに言えば時代考証していただき、さらに佐藤卯吉氏が保管していた貴重な写真20枚近くをA4に拡大コピーした。

私が事前に取材しておいた静岡県芝川町在住の松永賢一氏の住職振りと中央訓練所跡の現在の富士教育訓練センターのビデオフィルムをとあわせて、国際スピード郵便で送ったのが大会20日前だった。

成田出発3日前に早川副会長から国際電話が入った。「佐竹さん、あのサトウハチロー作詞の産業開発青年隊歌のCD何とか捜して、持って来て下さい。」と。今まで式典ではどうしてたのと聞いた所、一二の三で歌い始め、最後の方は二重唱、三重唱になってた

そうで、まあこれもブラジルらしいと言えばそれまでだが。今回のあの式典でのCDによる隊歌合唱は大変評判良かったし、私自身もじーんと胸にくるものがあった。

さらにもう1件。成田出発前日に今度は国内電話だが「佐竹さん明日何時に自宅をしますか？」と入った。午後3時成田集合なので12時半には出ますがと言ったところ「多分その時間まで間に合うと思いますが、これから現金書留を速達で送りますので、今回の大会のお祝いと現地サンパウロの誰々さんに届けていただきたいものがあるのですがよろしく」との内容であった。そしてブラジルへの出発当日9時にはその速達が我が家に着いたのです。まさに滑り込みセーフでした。

そして、前夜祭と記念大会

前夜祭そして、節目の50周年記念大会当日、人数だけは一番多いが、まとまりが一番悪いと言われていた7期生が実に21名(未亡人を含め)も参加したのにはびっくりしたし、本当に大感激した。まさかの予想だにできなかった者にも会えた。自分としてはこの時点で今回のブラジル旅行に来た目的の半分は達成したようなものだった。たった1年~2年の同じ釜の飯を食べた、ただそれだけのことであれだけの懐かしさと感激を味わせるのは移住者として、独り者としてはるか地球の裏側まで渡った者同士の強い連帯感がそうさせるのだろうか。

しこたま飲んだ！ 歓談した！ 笑った！ 涙が出た！ 写真も撮った！ 肩も組んだ。
あの晩、NIKKEY PALACE HOTEL にどのようにして帰ったのか覚えてない。あぶない。あぶない。

ない。

それにしても式典で日本からの代理の挨拶が（国土交通大臣のも含め）5人はいかにも多すぎた。こうした悪い日本のしきたりがブラジルでも生きていること痛感した。



ガルーヨス空港での奉祝訪伯団（9月1日）

旅のはじまり

3日～4日 サンパウロ→パラナ 記念大会が終わった夜パラナからの貸切バスの世話になりロンドリーナに着いたのが明け方3時頃だったろうか。野上夫妻と別れ、鋸屋さん夫妻と一緒に植崎の車で彼の家に向かう。思った以上に寒い。仮眠もしないでそのまま昼すぎまで話し込む。特に植崎は聞いた事のない昔の辛かったことを話した。鋸屋さんの奥さんは涙ぐんで聞いていた。みんなそれぞれ苦勞してるのだなあ実感。

4日 ロンドリーナ 鋸屋さん夫婦を笹島農場に送った後、ロンドリーナ共同墓地の無縁仏墓地を探し、中村貞計氏の冥福を祈りたかったが、その無縁仏墓地も整地中ではつきりしない。無常

5日 ロンドリーナ 朝 外気温 6℃ あとで知ったことだがこの朝あちこちで霜が降りたらしい。サンタカタリーナでは雪も降ったとか。あまりに寒いので「どてら」を借りる。ブラジルにどてらがあつて、しかもそれを着るとは。

夕食後鋸屋さん夫婦を鈴木貞男夫妻にバトンタッチしバスターミナルで別れる。鋸屋さん夫婦とはその後電話ではお話したが、9月28日のサンパウロのガルーヨスの空港で会うまで全く別行動をする。彼等も大満足の旅行だった様子。

6日 マリンガ 溝口先輩の案内で市内観光をする。その後、ウマラマへ。夕方、堤先輩の豪邸でご馳走になる。

2025 C

7日 ウマラマ 金子成男の墓参り。1974年12月2日死去（享年33歳）
伝えられてる理由と違う話をあとで聞いたが、むしろ新しく聞いた理由の方が自分として、いくぶん納得できるのだが。いずれにしても何も自ら死を選ぶ程の事ではなかった 合掌。
そしてこの金子の墓の管理費を昔の仲間がずーと出してるという良い話も聞いた。

8日 ロンドリーナ 島山善美氏の墓参りを奥様の案内ですませる。良くアメリカ映画で見る芝生に墓標だけの素朴な墓。4年前にお会いした時はあんなに元気だったのに。あの時頂いた「マットを焼いた跡の風景」の油絵は小生のウサギ小屋の居間にかざってある。

10日～11日 サルバドール いつかブラジルの古都を見たいと思っていた。スザノの鮫島さんの案内でついに実現。弟さん夫婦に大変お世話になる。

奴隷時代の名残りの史跡。古都といえ活気あふれる街を満喫。白砂の海岸もきれいだったが圧巻はサンフランシスコ教会の内部の金箔の輝きでしょう。当時の大金持ちのファゼンデイロ達が惜しみなく寄進してあんな豪華絢爛な装飾をつくったのだろう。

週に3回も！！・・・

12日～13日 ブラジリア 同期の吉田に世話になる。先ず野中安夫氏の墓参り。彼の晩年の話を聞く。事実とすればまさに移民としての典型的な哀れさを感じる。同期として墓参りに来たのは私が始めてだとか。そして同期の福重氏もここで亡くなった由。墓はサンパウロに移されたとの事。

1960年にリオから遷都して46年目で、今では市内人口が100万人を越える超近代都市を下からとタワーの上から見る。夜は二晩とも彼と痛飲する。彼の七転び八起きの話を聞く。アマゾンでの砂金掘りの話は圧巻。そしてタイチ原産の果樹「ノーニ」の栽培を始め、その果汁を飲み始めてから、右足の不自由がだいぶ良くなったという話は信じるとしても、あれの方が週に2回も3回もやれるようになったという話はどうなんだろう。

現在のブラジリア

14日～15日 スザノ・モジ 鮫島さんの家で旅装を解く。今から43年前パラナの訓練所から出て、最初の日系農場に入ったのがこのスザノ。ここでも先ず、その昔お世話になった1人の吉田さんの墓参りをする。いろいろ懐かしい所をまわった。

16日 サンパウロ 鮫島さんのご息のところへ厄介になる。3日の記念大会で牧会長は「我々青年隊の子弟の70%が大卒で、その40%が公務員となって活躍している」と挨拶の中で言っていたが、この2人のご息も大卒で上はUSPの大学教授、次男は日本の一流電機会社の役員待遇の部長をしてるとかで典型的なインテリ日系二世の家族を拝見することが出来た。

石井さんの奥さんと感激の再会と元所長の墓参り

石井の奥さんとの感激の再会と元所長の墓参り

17日 ペロオリゾンテ 8期生の荒木昭次郎氏に同期の横場氏と共に世話になる。彼は南青協の中でも「イタイプーのダム・発電所工事」で名を馳せて、建築土木の分野ではブラジルでも著名な方と聞いていて、若干緊張して飛行場に降り立ったが、奥さん共々大変気さくな方で、初日は早速、ブラジルでも有名な鍾乳洞を案内してくれた。圧巻だった。日本だったら大変な観光名所になってるはず。入り口で約30分位待たせられ、10人位揃ったところでガイドの少年が案内するというシステム。

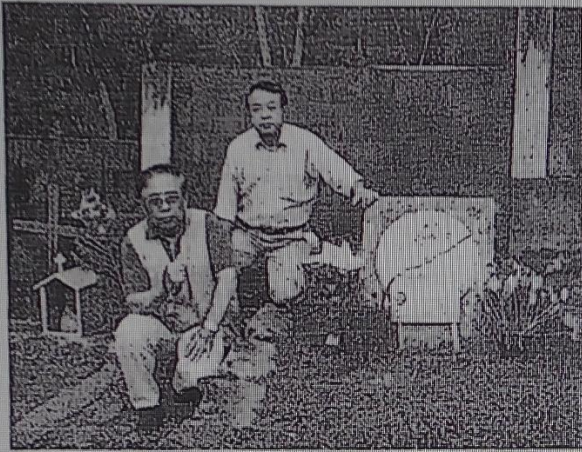
18日 ペロオリゾンテ郊外 2日目は今回の私のブラジル旅行の大きな目的の一つでもある、「石井元所長の墓参りと奥様との再会」である。2年前に足腰を痛めてから車イスでの生活で若干体力は落ちて来たとはまわりの方の話だが、とても95歳には見えず、記憶もしっかりしておられ、特に同行した横場氏の事はより正確にパラナ時代の事を含めて多くの事柄を覚えていて、横場氏本人は大変恐縮していた。

高齢のことでもあり、長居は遠慮して、それぞれ日本からの頼まれ物や手紙類をお渡し、おいとますることにした。そして帰り際、彼女が70歳から始めた陶芸の作品の一つの湯飲みとこれまでの生い立ちと作品のリストなどが掲載されている豪華な写真集に自筆でサインしたのを頂いてきた。最近彼女の作品がここペロオリゾンテのみならず、ブラジル国内でも大変評価が上るとかで、大変貴重な物を頂いた事になる。

彼女の住んでいるファゼンダから小1時間も走ったろうか。小さな街はずれの小高いところに石井延兼氏の眠っている墓地（というより墓所が正確かな）があった。今まで見慣れたサンパウロやロンドリーナ、ウマラマの墓地と全く様子は違って、良く言えば素朴、悪く言えばうら寂しい限りの墓所そのものだ。しかしブラジルの土になる積りで移民として渡って来た方の落ち着き先としてはむしろふさわしい風情の墓所かもしれない。合掌

18日の続き オーロプレット 良い響きの街の名だ。古めかしい教会の多い街でもある。荒木さんに案内していただく。初めて家族にお土産らしいお土産の宝石を少し買った。

次ページの写真は2006年10月18日に撮影されたものです。



石井延兼氏の墓所 横場氏と



石井敏子さん（早川君の短冊を抱えて）

君が傍 母が如きの温もりに

故郷の母をそっと思えり (早川 量道 作)

北島とまさかの再会

北島とまさかの再会

20日 イタニヤン 今回の1ヶ月のブラジル小旅行で想定外のナンバー1はこの北島との出会いであろう。話は1962年にタイムスリップする。パラナ訓練所を修了（イヤ、ぼん出されたのが正解かな）後、榎崎と北島そして俺の3人でトルマ（共同経営）を組み、訓練所付属の水田で米の歩合作を始めた。この3人はそれぞれ個性が強く、言いかえればアクの強いタイプだ。最初の頃は旨く行っていたが、そのうち最初の収穫もしないうちにトルマは空中分解してしまった。理由は今はどうでもいい。ここでは詮索はしまい。それぞれ若かったのだろう。あれから43年の歳月が流れている。そしてそれぞれの道を歩み始めた訳。俺と榎崎は日本での家族ぐるみの付き合いも含め連絡は取りあっていたが北島とは没交渉だった。2日の前夜祭、3日の記念大会にも見えなかったので今回の訪伯での出会いは諦めかけていた。

なんとかあいつと会いたいな一どちらからともなく言い、ダメモトで、8日にロンドリーナの榎崎の家から恐る恐る北島に電話してみた。例のかん高い声で「是非来いよ、俺はワンちゃんいるんで、外出がなかなか踏ん切りがつかないんだ。じゃー20日に迎えに行くから、ロードヴィアリオに着いたら電話くれと……」

そしてイタニヤンのロードヴィアリオに8時半頃着いたらもう北島が待っているではないか。相変わらず背が高く（あたりまえだが）、かん高い声で「イヤーまいったよ、夕べ俺の家の近くの電話ケーブルが数百メートル盗まれて電話が通じないので、サンパウロ発の始発のオニブスの着く頃からここで待ってたのよ」と1時間位前から待ってたらしい。

40 数年という年月の流れとそれぞれの歳（とし）は青春のわだかまりなんかすぐ飛ばしてしまうのだろうか。それから「北島よ・・・」「楢崎よ・・・」「佐竹よ・・・」と夕方6時頃までアルモッサとジャンタをはさんで約9時間話し続けた。なんか話している内にそれぞれ20歳台にタイムスリップした感じになって来た。しかしよくお互いの顔を見れば、髪は薄くなり、白いものが混じり、しわとしみは隠しようがない・・・

多分7期生の中で一番最初に恋愛したのは彼だったし、しかも相手は外人だ。そして結婚した。その奥さんが2年前に乳がんで亡くなったとの事。1990年から他の多くの青年隊員が経験したように、約10年間も夫婦で日本に働きに行き頑張ってお金を貯めたらしい。「墓は何処だ」「町のすぐそばだ」「じゃ墓参りさせてくれ!」とすぐ出かけた。4段のアパート方式の墓地だ。さすがだ。北島の奥さんののが一番立派だった。墓標を見ると、亡くなった日が2004年9月3日となっている。9月3日といえば、50周年記念大会の日ではないか・・・

2025

ガレージには車で引っ張れるようになっているボートは2台はあるし、船外モーターも4、5台はあったのでは。車は普段用ポンコツが1台、遊び用が1台と。晩年は夫婦二人で魚釣り三昧にふけられるようこの土地を買ったのだがと言っていた。奥さんの兄貴の

ジョンとは今でも当然つき合ってるようでミナスに住んでみたい。毎年1ヶ月位かけて遊びに行くとか。

話しはつきなかった。でも俺のスケジュールの都合もあるし、今晚サンパウロに戻らなければならない。いよいよロードヴィアリオで別れる時が来た。楢崎は来年夏までには家内も日本から帰ってくるし、車も新しくしたし、遊びに来るからなと言っていた。まさに恩讐はかなたか!!

津野と話ができた!



冗談もでた! (2006年9月21日)

21日 サンパウロ 早川君の車で津野の所に見舞いに行く事にした。場所は盆子原氏が案内。これこそダメモトだ。というのはブラジルに着いた9月1日に日本から一緒に来たサンテックの木下夫妻と見舞いに行ったのだが、生憎体調が最悪の日で話も出来なかった。

彼とは移民船「あるぜんちな丸」の中からパラナ訓練所まで妙にウマが合い、今思えば青臭い「青春論」や「人生論」を論じあった。俺に「小型」大宅壮一とあだ名を付けたのも彼だった。それはさておき、きょうは体調も良いようで安楽イスに腰かけ、日向ぼっこしてるところだった。丁度奥さんも見えていた。

2年前日本に帰って、坊さんになった松永賢一さんの写真を見せたら「へー賢ちゃんがねーこんな坊さんになったのかー」「しかしだいぶ前から坊さんになってたみたいだなー」とか言ってた。しゃべり方はまあまあで大体分かった。なんかの時におれがびっくりした時ブラジル語では「ノッサ・セニョウラ」と言うよなといたら、彼はすかさ

ず「俺だったら、ノッサ・セボーラと言うな」と言い返し皆で大笑いした。その辺のやり取りは録音しておいたので、今度松永さんを防ねた時、聞いて貰おうと思ってる。

22日 モチ 10期前期の蒲谷氏（東海林さんの娘さんと結婚してる）の案内で40数年前お世話になった東海林さん夫妻の墓参りをする。立派な墓 合掌
夕方モジの西堀さん主催の夕食会に呼ばれる。西堀さんの息子さん家族、スザノの鮫島さん夫婦、蒲谷氏夫妻そして近くでマッシュルームで成功している7期生の田辺も来てくれた。夜遅くまで飲み、歓談した。

高校の同級生で9期生金子の晩年を知る

23日午前 モチ 俺の高校の同期生で青年隊の9期生としてブラジルに渡り、しかも数ヶ月ではあったが一緒に生活も共にした金子彰が1990年に44才の若さで死んだ事は日本で苦労して調べて分かっていたが、その晩年の様子を確認するというのも今回の旅行の目的の一つであった。金子の未亡人のお姉さんがモジに住んでいて、住所も控えて来たので蒲谷氏にお手数を煩わし、会うことが出来、晩年の金子彰の様子を確認する事が出来た。

ミナスのバルジーニャで彼は日系企業で働いていて、1977年外人と結婚、2児をもうけるが上の女の子は彼が死亡してから、交通事故で亡くなっている。もう1人の男の子は現在25歳になり、カンピーナスで柔道の道場の先生の助手をしてるみたい。未亡人は現在

もバルジーニャに住んでいて、墓もバルジーニャにある。そんなわけでバルジーニャ在住の6期生の武井さんをお願いして、墓参りが出来ないか未亡人に聞いてみたが「自分は彼が亡くなってから、悲しみが募るので一度も墓参りしてない。申し訳ないがご案内は出来ない。もし日本の親戚の方が彼の遺骨を持って帰りたいなら便宜を計ります」との話だった。

それから死因は恐らくアルコール依存症が起因した血栓症みたい。まあ墓参りは出来なかったが晩年の様子が大体わかったので、来月仙台に行く機会があるので、未だ健在の実母

(95歳)と実のお姉さんに報告するつもり。

これはあとで聞いた話だが、武井さんが密かに墓地を調べたところ、墓地は4段のアパート方式で彼が葬られているあたりを見たら、ほとんどの場所が番号や名前を書いた標識が朽ちかけてわからない状態みたい。この事は仙台のご家族には報告できない。無常

23日午後 スザノ 西本願寺で旧知の吉田カツエさんの米寿の祝いに早川君、そして7期生の伊藤和夫氏(遠い親戚みたい)と出席する。30数年振りに何人かと会う。

23日夜 サンパウロ→カストロ 早川君の運転でスザノからバラ・フンダのロードヴィアリオに送ってもらう。カストロ行きのオニバスに乗り込む。ちょっと寒い。

友よ安らかに眠れ!

24日 カストロ 早朝4時過ぎカストロのロードヴィアリオに着く。打ち合わせ通り佐々木さんの娘さんが迎えに来てくれた。すぐ佐々木農場へ。2時間ほど仮眠取る。10時からカストロの教会で故佐々木悟氏の3回忌ミサに参列。この佐々木悟氏はコチア青年で私等夫婦と同じ宮城県出身、しかも私の家内と佐々木さんの奥さんが同船且つ同じ花嫁移民という縁もあって、出稼ぎで日本に来ていた二人の息子さんも含めて家族ぐるみのお付き合いが続いている。

そしてその息子さん等の強い要請で当時93歳で健在だったお母さん(当然息子さんからすれば祖母にあたる訳)と会うため、当の佐々木さんが日本に来たのが2年ちょっと前の2004年の5月だった。すぐ宮城県金成町のお母さんに会いに行ったわけ。内心、「これが今生の最後の別れになるかも知れないと思い、涙が出てしようがなかった。」とあとで彼は言っていたが、なんのことはない彼は自分から今生の別れにお母さんに会いに来たことになったのだ。というのはそれから4ヶ月後、佐々木悟氏はカストロの自分の農場で農作業中トラクターがトンバして即死してしまったのである。8月29日(日本時間)の10時頃だったろうか。突然「パパイが、パパイが大変なの」という佐々木さんの奥さんから国際電話が入り、彼は64歳の生涯を閉じてしまったのである。二人の息子さんはすぐ切符の

手配をして(といっても、2日後のヨーロッパ廻りの飛行機便)文字通りブラジルに飛んで行ったが葬式に間に合うはずもなく、最悪の状態の別れになってしまったのである。

ミサの終了後、カストロの街のすぐ近くの小高い所にある墓地に向った。この度の旅行では多くの墓参りをしたが、それぞれの墓地で色々な思いがこみ上げて来たが今回の佐々木悟さんが一番胸にこたえた。「友よ安らかに眠れ!そして残された家族を見守ってくれ」と心に何度もつぶやいた。そして日本のお母さんも彼のあとを追うように昨年2005年に亡くなった。合掌

結果的にお母さんに別れに来た 2004 年 5 月の思い出がいろいろあるが、一番彼が喜んだのが、無類の読売ジャイアンツファンなのは知っていたので東京ドームの巨人一阪神戦に招待した時、清原や高橋由そしてローズがばかばかホームランを打って、8 対 2 でジャイアンツが快勝した時だったと思う。ジャイアンツのマークのついた野球帽を早速買って得意顔でかぶっている姿が昨日のように思い出される。それから玉じやりを踏んで新緑の明治神宮の境内を散策した時も喜んでたなあ。「これぞ、日本の魂だなんて」。今、農場は弟のひろし君が跡を継ぎ、頑張ってるようだが仲々大変みたい。兄は又日本に戻り、今も千葉の市原で働いている。

奇岩にびっくり

25 日 カストロ→クリチーバ ひろし君の運転で奥さんと一緒にカストロ市内で買物してから（私の孫 5 人にブラジル・ナショナルチームの例のカナリア色のユニホームをお土産に頂く。日本に帰って着せたら孫達は大変喜んでた。）ポントグロッサ近くの VILA VELHA に向う。ブラジルにもこんな景観があるんだとびっくりするやら、知識のなさを恥



【備考】 20 ページからここまでの原稿は会報第 112 号の記事から長田委員にイーメールで送信してもらったものです。

字がやや小さく読みにくいですがお許しください。

また、第 28 ページの一部が斜めの写真であることをお許しください。

アメリカ第一主義

サンパウロ 9期 貝田定夫

アメリカ国民の大半は生活に困っている。最近30～40年間のアメリカの経済事情を見ると、実質の生活水準は下げ続けており、現在、国民の60～70%は生活が苦しくなったと言っている。

まずは国民の生活向上を第一としなければならず、国民の血税を使って他国の戦争を支援するとか、無償の海外援助を続けるなどの余裕はない。また、世界の正義と平和を守る盟主であるとか、自由主義社会のリーダーであるとか、あるいは国際協調を重んずるとか、きれい事を言っている場合でもない。アメリカ経済の立て直しが急務である。

ソ連が崩壊した後、アメリカは唯一の超大国となり、圧倒的な経済力と軍事力を利用して世界の警察官の役目もしていた。しかしその後、徐々に衰退に向かい始めた。かわって台頭してきたのが中国で、短期間の間に強大な経済力と軍事力を持つようになった。中国は世界で最も軍事予算の上昇率の高い国で、このままいけば10年後あるいは15年後、軍事力でアメリカを超えるだろうと見られている。

アメリカの最大の敵は中国であり、アメリカとしてはウクライナや中東問題などを早々に片付け、軍事力を強化して中国との覇権争いに備えなければならない。

以上がアメリカ第一主義の根本であり、このことを理解していればトランプの言動に納得がいくであろう。確かにトランプはウソもデタラメも言うが、それは取引のための手段であって、彼の行動を通して真の目的は何であるかを注意深く見る必要がある。

ここからはアメリカ社会がここ30～40年間どのように変わって来たのか、アメリカ在住の国際政治学者、伊藤貫氏の見解を引用しながら次に述べたい。

トランプは新しいアメリカの国家像を持っており、19世紀のアメリカに似ている。当時のアメリカは孤立主義国家で、関税を高くして自国の産業を保護していた。だから、トランプが突拍子もないことを言い出したのではなく歴史的に前例がある。

現在のアメリカは経済、安全保障、資源など自立できるので、19世紀のような孤立主義が可能である。それ故、トランプは関税を高くし、移民も

入れたくないし、他国との同盟にも消極的。昨年 11 月の大統領選の結果を見てもわかるように、国民の半数以上が彼の考えを支持している。

アメリカでは 1993 年のクリントン政権から新自由主義とグローバリズムが始まり、支配階級に富が集中するようになる。

具体的に数字で見ると、1980 年代には毎年の国民所得の 20~25% が 1% の富裕層に集中していたが、クリントン政権になると国民所得の 45% が 1% の富裕層に集中するようになった。それからブッシュ政権を経てオバマ政権になると、なんと国民所得の 95% が僅か 1% の富裕層に集中していた。

このようにアメリカ社会では極端な富の集中となり、富裕層とそれ以外の格差がかってないほど大きくなった。富裕層は贅沢三昧の生活をしているのに、一般国民は生活費の高騰に苦しみ、低所得層は生活していくのがやっつである。国民の生活水準は過去 30 年以上低下し続けている。

1950 年から 1980 年頃まで、アメリカ企業は利益の約 50% を従業員の賃上げに使っていた。しかし、1980 年以降、企業の収益が増えても従業員の賃上げに使うのは、僅か 3% か 4% に減少した。即ち、労働者の生産性は上がっているのに実質所得はほとんど停滞したままになっている。これがいわゆる「株式資本主義」というもので、会社が収益を上げててもその収益のほとんどが株主に行き、労働者の懐には入らない。労働者達は搾取されている。

一方、支配階級(富裕層)に属する人間は何の不満もない。自分が成功して贅沢できるのは当然の権利と考えている。ところがトランプが出現し、支配階級が富を独占しているシステムを壊そうとしている。これに驚いたエリート達は「乱暴者のトランプが壊そうとしている、とんでもない奴だ、引きずり降ろさなきゃいけない」と猛烈に非難し始めた。これは支配階級に属している人間にとっては当然の反応であろう。

ところで、トランプは不動産事業で成功した大金持ちである。富裕層の一人なのに何故庶民の味方をしているのか、という疑問が湧く。これには面白いエピソードがあり疑問に答えてくれる。

トランプは大金持ちの坊ちゃん、金持ちが行く私立学校で学んだ。しかも毎日運転手付きの車で学校に送り迎えされていた。ところが、学校から帰ると自転車に乗って下町の庶民が集まる公園に行き、悪ガキと遊んだり、ケンカしたりするのが好きだった。金持ちの息子のくせに、行儀のい

い坊ちゃん連中と遊ばず、庶民の貧しい連中とワイワイ騒いで一緒に野球をやったりしていた。

それ故、トランプが庶民の心を掴むのがうまいのは、彼自身が子供の時から庶民と接していたからであり、庶民のことを考えるのも領ける。

ここ 30 年間続いてきた新自由主義とグローバリズムは崩壊しつつある。アメリカのみならずヨーロッパにおいても同様に、ドイツとフランスの現状を見れば良くわかる。

ドイツでは既成の政党が支持されなくなっている。右翼政党 Afd(ドイツのための選択)が急速に支持を伸ばし、最近の選挙では第 2 党になった。Afd は「中東からの不法移民によりドイツ人は仕事を奪われ、女性と子供は暴漢されるなどとんでもないことが起きている。不法移民は強制送還すべきだ」と、トランプ政権と同様のことを言っている。

フランスでも既成の政党が支持を失い、マクロン大統領の政党は最近の総選挙で惨敗した。

現在、フランスの最大政党は国民連合で、国会で最大の議席数を持っている。ルペンが率いる国民連合はフランス第一主義を掲げている。

伊藤貫氏によると、新自由主義とグローバリズムから「重商主義」の時代になりつつあると言う。これまでの自由貿易主義というのは、個々の商人か個々の会社が世界市場に出て行って、自分たちの好きなように商売して利益を得れば、それで世界が豊かになっていく。これが自由貿易主義の基本的な考えである。

しかし、重商主義というのは貿易も経済的な取引も全て自国の国益を優先させる為にやる。全ての経済行為が自国にとってプラスになるかマイナスになるか、を判断基準として決める。これはまさに「アメリカ第一主義」そのものである。



国際援助という名の無駄遣い

サンパウロ 9期 貝田定夫

国際開発庁(以下 USAID とする)、アメリカの国民さえよく知らない名前が、突然世界で有名になった。USAID とは、世界各地で海外援助を行うアメリカ連邦政府の独立機関で、人道支援、医療・教育支援などを行い、世界 100 カ国以上で活動している。

ところが、政府効率化省 (DOGE) のトップ、イーロン・マスクが USAID を「腐敗したウジ虫の塊」と呼び、腐敗の数々が暴露されるにおよんで世界中に知られることになった。

マスクは最初に職員が USAID の本部ビルに入ることを禁止した。これは職員により情報が消されたり、変更されたりするのを防ぐ為である。続いて職員の 90 日間の停職、国際援助活動の大半を一時停止、海外にいる職員(全体の 2/3)の 10 日以内の帰国などを決めた。そして、マスクは外部から若く有能な IT 技術者を多数雇い入れ、特に金の流れを徹底的に調査した。

ホワイトハウスは USAID による税金の「浪費と悪用」を指摘し、下記のような具体例を明らかにした。

- ・アイルランドの「DEI ミュージカル」の制作に 7 万ドル
- ・コロンビアの「トランスジェンダーオペラ」に 5 万ドル
- ・グアテマラの「LGBT 活動」に 200 万ドル
- ・エジプトの観光に 600 万ドル
- ・ウクライナのインフルエンサーに 484 万ドル
- ・パラグアイの国境警備に 210 万ドル
- ・ヨルダンでの映画製作費に 87 万ドル
- ・セルビアの DEI 推進に 150 万ドル

ホワイトハウスは声明文の中で「このリストは延々と続き、このようなことが何十年にもわたって行われて来た」と述べている。

ロンポール元下院議員は「外国への援助を完全に廃止すべし。アメリカの貧困層と中流階級から金を奪い、貧しい国の指導者たちに与えている」と、30年以上言い続けている。

どういうことかと言うと、国民の血税が USAID を通して外国の支援活動に使われていたが、貧しい国の指導者達は資金の大部分を自分達の懐に入れ、残りを貧困層の援助に使っていた。ロンポールはこの腐敗を指摘していたのだが、証拠不十分で議会では相手にされなかった。しかし、今回マスクが徹底的に調べた結果、腐敗の事実が明らかになり、彼の主張が正しかったことが証明された。

このような腐敗は数十カ国にも及ぶものと考えられ、30年以上も続いたのであれば、既に莫大な金額が闇に消えたことになる。

USAID の資金はとんでもないところにも使われていた。米ソ冷戦時代、当時の CIA (中央情報局) がマスコミに勝手な報道をさせないために言論統制をしていたが、現在に至ってもマスコミに対する影響力を保持しようとしている。CIA は USAID の資金を使って、アメリカの主要メディア、NY タイムス、ワシントンポスト、ABC, CBS, NBC などに圧力をかけ、言論統制をしていた。バイデン政権時代、民主党支持の主要メディアはトランプ批判を執拗に繰り返し、バイデンを擁護していた。

マスクは政府全体の経費削減を目指しているが、USAID はその目標の一つであり、廃止か極端な縮小を検討している。マスクに対する既成勢力の反発は大きく、特に民主党議員がその急先鋒になっている。彼は執拗な反対勢力と闘いながら、腐敗根絶を掲げて奮闘している。ちなみにマスクは世界一の富豪で、無給の政府特別職員として働いている。



ブラジルの建設工事に参加して

ジュンジアイ 9期 荒木昭次郎

私は1963年に建設省開発青年隊組織で31名の仲間達と移住して、パラナ訓練所久万浩所長の元で半年程過ごし、以後サンパウロで青年隊機械班に加わって、主にサンパウロ州内各地の工事に参加していました。

そして2年ほど後に青年隊機械班グループと別れて、私のブラジル移住の夢だったベレンーブラジリア国道工事を身近にと思い、ゴヤス州の奥地まで行き、青年隊第1次移住先輩の黒木さん、安摩さんを訪ねていろいろ話し合いました。そして奥地セーレスで知り合ったブラジル人と道路の工事測量をしていました。その後ですが黒木さんから連絡があり、カショエイラ・ドゥラーダダム建設工事会社で測量士を探しているとの事を知らされ、ダム工事現場に行き各ドキュメントを提出して、ゴイヤス電力会社採用になりました。このダム工事参加から私のブラジルでのダム工事遍歴が始まった訳です。そして2017年に「ブラジルのダムと50年」としてサンパウロ市の日毎叢書企画出版社で小紙に纏めて下さいました。それにブラジルのダム工事施工に参加した地図を載せましたが、書き足しがありましたので書き直しをしました。

当時はブラジル国以外のチリー、コロンビア国の工事等もブラジルの建設会社が請け負っていた時期で、全部ブラジルの本社を通じての契約でしたが、仕事は現地での仕事と約半数は私のベロ・オリゾンテ市の事務所での仕事でした。仕事は工事計画書とか特殊型枠の設計と特殊支保工の設計製図作業などで全部コンピューター作図の仕事でした。運良く私の長男、続いて三男（事故で死亡）とも大学の工科を学んでいたのも、コンピューターでの製図を受け持ってくれ、それに製図担当の人を雇って仕事をしていました。私は以前からの製図用の大きな机での製図でしたが、時代が変わり全部の図面が **AutoCAD** の様式となり私も学んで覚え始めました。

世話になった機械班での仕事はパラナ州カストロの農地測量、サンパウロ州ソロカバの農地測量、イビウナの農地区画工事、マイリポラン道路工事等に2年間程参加していました。当時の思い出があるので以下に書き足しておきます。

機械班の仕事でパラナのカストロ農場の測量に7期の畠山さんと一緒にサンパウロからバスに乗って行きました。途中のバス停留場で畠山さんが「ビタミンを飲んで行こう」と云って、販売店に頼んで大き目のコップに

青々の濃い液体が入っているのを、これがビタミンと云う飲み物でうまいぞと云って渡してくれました。一口飲んでその美味さにびっくり、こんな100%のビタミン剤が田舎のバス停で飲めるブラジルに驚いた事でした（**abacate** でした）。

これも機械班の仕事で、マイリポラン町の山間の道路開設工事でしたが山間を通る道なので岩石も多く、ブルドーザで開いて行くのですが、大きな岩石は不動なので岩石に穴を開けてダイナマイトを仕込んで爆破していました。ある日曜日でしたが仲間達で海水浴に行こうと誘われ、海岸に着き人里の居ない所を探し、仲間達が現場から持って行ったダイナマイトを海水中に投げ込んで魚捕りをするとこの事でした。近辺に誰も居ない事を再度確かめて岸边から投げ込んで、すぐ爆発が起こり直径十メートル程に白い腹を出した魚類が浮き上がって来ました。すぐに手網ですくい取りバケツ一杯の収穫だったのを思い出します。仲間内では絶対に他言禁止と言って、もし警備の人が来たら大変と早々にその場所から逃げる様に去ったのを思い出します。

以下に私に関した工事場記載の地図を添付します。

地図の下にある ポ語の意味：

UHE は **Usina Hidrelétrica** のことで、水力発電所。

U.Nuclear は **Usina Nuclear** で、原子力発電所。

Termelétrica は火力発電所。

Estrada は道路・街道。

Metrô は地下鉄。

Barragens はダム（複数）。

この頃思うに

イグアスー 単独 齋藤信夫

2025年私は着伯60年目を迎えました。60年前の昔、私は何も知らず、大きな夢だけをブラジルの大地に託してやって来のでした。

若かったなあ！ 未熟で無知な若者に、ブラジルもこの世も、思うほど生易しいものではありませんでした。彼方此方流れ、流され8年、辿り着いたのが、パラナ州の西の端、パラナ川の向こうはパラグアイ、イグアスー川の向こうにはアルゼンチンと云う三角点で、まさに、地の果てと云った感じの所でした。其れでも、そこには世界一を誇るイグアスー瀑布があり、観光によって世界と繋がっておりました。

そこでも荒波に揉まれながら、50年余の歳月が流れ、今は小さいながらも、やっと自分の城を持つことが出来ました。

残る人生は少ない。でもいいか？！ ゼロからの出発で、今は食べるに事欠かなくなったのだから。

遠きブラジルから、祖国日本を眺めますと、一時は経済大国と囃された日本も、今は世界情勢の変わりように付いていけず、国内は物価高、あまりの円安、昔の面影はなく、大変な様子。そして天災大国は、今日もどこかで何か起きています。でも日本人の勤勉、謙虚さ、賢さ、忍耐力と云ったものは、この過酷な自然との闘いから生まれたものでしょう。

この日本という国を振り返ってみますに、明治維新以来、40年ほど前に、大事が起こっている事を知りましょう。

1868年。日本は自ら大革命を起こし「明治維新」を、やり遂げました。そして西洋に追いつけ、追い越せで近代国家に生まれ変わるよう邁進しました。

1905年。世界一の陸軍を持つ、大国ロシアとの戦争に勝利する。陸軍はようやく4分6分で優勢、という程度であったが、海軍の方はロシアのバルチック艦隊を絶滅するという、申しようのないパーフェクトな勝利で、アメリカのルーズベルト大統領の口利きで日本の勝利という事で終戦。日本は南樺太を得る。これで日本人の「うぬぼれ」的体質が頭をもたげ、太平洋戦争を起こすことになる。

1945年 日露戦争に勝利を得ると、軍は拡張を重ね、ついには日米戦争を起こし、結果は破滅的敗戦となり、それも原爆実験にされた。

アメリカは作った原爆を、アリゾナの砂漠で野ネズミやトカゲを殺すような事ではなく、実際に人間の住んでいる街に落として、その成果を知りたく、広島と長崎に落とし、その成果に満足した。

1985年 上記のとおり、日本は太平洋戦争に破滅的大敗をし、国は壊滅的な状態となったが、そこから立ち上がった。持ち前の勤勉と工夫によって、日本は高度成長を成し遂げ邁進した。世界第二の経済大国、21世紀は日本の世紀等と、おだてられると、日本人の悪い癖である「うぬぼれ」が出て、有頂天と成り、やがてバブルが弾け飛び、以来今でもその低迷から抜け出せないでいる。

2025年 そして今年は何？ 高度成長後の運命の40年目である。円安はどうにも厳しい状態です。今年外国からの観光客が6千万人を超えるだろうと言って居る。円安だからくるのであって、誇れた事ではない。

アメリカでは新でなく、出戻りの大統領であるトランプが、就任前から吠えている。メキシコ湾をアメリカ湾と名をかえろ、パナマ運河はアメリカが作ったのだから、アメリカに戻せ、グリーンランドをアメリカに任せろとデンマークにねじ込んだりし、好き放題に吠えている。ジェレンスキーウクライナ大統領との会談では、援助は減少させ、ロシアのプーチン大統領と会談して「戦争を止めさせる」などとほざいている。それを聞いたフランスのマクロン大統領は、ナトーへの援助が減少すれば、ヨーロッパは格国が核をもたなければ、と第三次世界大戦の用意をせよ、みたいな事を言い出した。

2025、我々には何も出来ない。

今日も、世迷言でもグダグダ云いながら、カイピリーニャでも飲むとするか！



最近のイグアスの滝とア国への橋、パラグアイへの新しい橋

全部、私が撮影した写真です。フォス・ド・イグアス 単独 齋藤信夫



編集委員志方さんの
要請で写しました。

これはイグアスの滝
です。
中央奥の滝は「悪魔
のど
の喉ぼとけ」
(Garganta do Diabo)
と呼ばれています。
落差は82メートル
です。



滝を見るための遊歩道です。



やや下流から見たところ
です。



滝の下流のイグアス川でブラジル(左側)とアルゼンチン(右側)を結ぶ国際友愛の橋 (Ponte Internacional da Fraternidade)で、正式名はタンクレード・ネーヴェス橋(Ponte Tancredo Neves)と称するとのことです。



パラナ川下流側から見たパラグアイとの新しい橋で左側がパラグアイで、融合の橋 (PONTE DA INTEGRAÇÃO) と呼ばれ、右側からイグアス川が合流しています。パ国への古い橋はこの上流約9 kmにあり、その名前は友情の橋 (PONTE DE AMIZADE) で、次頁の写真です。 ◆

フォス・ド・イグアスからパラグアイ（左上）へ向かう
国際友情の橋。左上の街はシダーデ・デル・エステで東の市の意。

A Ponte Internacional da Amizade, ou simplesmente **Ponte da Amizade**, foi construída durante as décadas de 1950 e 1960. Liga a cidade de [Foz do Iguaçu](#) no [Brasil](#) e [Ciudad del Este](#) no [Paraguai](#), passando sobre o [rio Paraná](#).



この写真はインターネットで見つけたものです。（志方） ◆

最近のNHKのニュース番組でひょっとみかけたのですが、昨年一年間で、富士の裾野の山梨県側にある青木原の樹海で自殺した人は500名だったと聞きました。

その内の半数は地元山梨県の間人だと聞き、後で考えて青木原の樹海がいくら自殺の名所だと言われても年間の自殺者が500名と言う人数は多すぎると思いましたが、確認する方法はありません。

私は中学一年生の秋の富士5湖観光旅行で、富士山の噴火時に出来た無数の風穴の一つを観光した時に、その青木原の樹海の中に入りました。

その森の中は秋の終わりで枯れ葉が厚く積もり、大木の下は案外きれいだったと感じました。その時担任の先生が言うには、此処は自殺の名所で道から200メートルも入ったら、誰にも見られないといわれました。

その自殺者の多くの人々が、氏名住所を残しているようです。以前は熱海の錦ヶ浦の絶壁断崖の太平洋の荒波に飛び込んで壮絶の死を遂げた様ですが、時代と共に自殺の形式も変わったようです。

一昨年前のカナダのトロントに住む4女の家族を訪問する数日前の日系新聞の記事に、一人の日本人女性がナイヤガラ瀑布から投身自殺をしました。その飛び込み前に近くにいた観光客に話しかけ、一枚の紙を渡して素早く滝壺に飛び込みました。

カナダのトロント近くのカナダ側のナイヤガラ瀑布に来て、その飛び込んだ場所を探しましたが、カナダ側の滝には飛び込める場所はないので北米合衆国側だと思いました。その時私達は滝の半分の北米合衆国側には行きませんでした。両国はどちら側にも自由に出入り出来ます。

私の実家は、今は山梨県の甲府市に合併されていますが当時は、甲府駅から12キロ離れた山裾の旧村の小さな部落でした。

私が小学生の頃、私の友人の姉がホルマリンの服毒自殺を計り、余りにも苦しいので井戸に飛び込み自殺しました。

その友人の姉は隣に住む青年と密かに逢瀬を重ねる内に、妊娠してしまいました。その青年は農家の跡取り息子ではないので自立の道は有りませんでした。数ヶ月して父親に知れてしまいました。その父親は大酒のみで短気者で、自分の娘を気絶するまで叩きました。友人の姉は死ぬより道はないと思い自殺しました。

次の話ですが、その自殺した娘のすぐ隣の家に住む橋田清隆さんは、少し歳嵩で其の後少しして、甲府市の武田神社の境内の林の中で首吊り自殺をしてしまいました。この清隆さんは達筆で遺書には幸は掴めなかったと言だけ書き残しました。

それは夏の盛りで発見されたのが二日後でしたので、遺体が少し傷んでいました。その遺体を15キロ先から長男が荷車を引き、父親が後ろから押して、2人共くたくたに疲れて夕暮れ時の暗がりの中を私の家の前を通りがかった時に、私の兄は頑張りますねと挨拶すると、黙って何も言わずに通り返してゆきました。

翌日の葬儀の参列者は近くの墓場までは異臭がするにで、ハンカチで鼻を押さえて行きました。その当時は普通遺体を焼却する事は稀でしたが、その武田神社の直ぐ近くに火葬場があったのですが急いで持ち帰りました。

部落内での三番目の自殺者は2~3年後で、女性でした。彼女は鹿児島から結婚している姉を頼って2~3年程前に来たよそ者でした。

彼女は23歳の年頃の美しい娘でした。彼女は鹿児島の実家の方で美容師の資格を取って、姉の呼び寄せで来て義兄に厄介になっていました。

義兄は町役場の収入役を務める役人でした。部落内に少しまともな長屋を持っていました。

時期的にも部落内では養蚕景気の始まりで、娘やおばさん連中にパーマネットが始まった頃で、美容院の仕事は順調に進みました。祭りや催し事の前には大忙しで夜遅くまで働きました。町役場で働く義兄は酒飲みで酒癖が悪く、ある日夜遅く酒に酔って来て鹿児島娘を手籠にする。そんなことを数回繰り返す内に娘は妊娠してしまう。

彼は酒癖が悪く、常識外れの事を時々する。娘は姉に申し訳ないと思いい、自殺してしまう。私としたら彼が町役場から南米産業開発青年隊の募集のビラを持って来てくれたので、コチャ青年のブラジル移住の枠で来なくて済みました。ですから私としたら悪いばかりでは有りませんでした。

次の自殺の話ですが、私の中学の同級生は男女合わせて丁度100人の生徒数でした。その中の一人の女性徒の友江さんも18歳の春に自殺して亡くなりました。彼女は明るくはきはきした娘でした。

私の叔母は友江さんの直ぐ隣に住んでいました。亡くなったすぐ後で見た様子で服毒自殺だと見ました。私達同級生も沢山の人が参列しました。今思い出しても悲しくなります。もう一人の男子同級生が自殺されたようですが、その時は既にブラジルに来ていたので詳しい事は分りませんでした。

ブラジルに来てからの青年隊仲間では、三期の新井輝夫さんがいます。同期の井口氏の話ですと、隣のジャウ植民地で4人で綿作りをしている時に自殺をしてしまったと聞きました。

7期の金子氏とは比較的私は良い仲でした。彼はピンガに溺れてしまい、青年隊の食堂で働くクレウザの妹と婚約して居たのにもうひと踏ん張りしたら良かったのにと思います。

今や我々の南青協の仲間は全員後期高齢者に成り、人生を全う出来たので自殺も卒業です。



富士山に雪と春がすみ

富士宮にて 8期 志方進

富士宮のショッピングセンタ・イオンモール屋上から見た富士山です。
中腹までたっぷりの雪が降り、裾野もうっすらと雪化粧しました。



【編集委員メールアドレス、ご連絡用電話番号】

そ が よし なり
曾我義成 ysoga@rimobloco.com.br 事務所(Escritório) 11-4057-2377
携帯(Tel. Celular) 11-97120-0863

ぼんこはらくにひこ
盆子原国彦 kbonkohara@live.jp 自宅(Residência) 11-3721-1127
携帯(Tel. Celular) 11-97431-9994

おさだたかとし
長田譽歳 takatoshi.osada@gmail.com 自宅(Residência) 11-5563-6929

はやかわかずみち
早川量道 kazumichihayakawa43@hotmail.com
携帯(Celular)15-99778-3107

しかたすすむ
志方進 ssshikata@gmail.com 日本では 070-9087-8862

皆様ふるってご投稿ください。ご投稿を受信しましたら、着信通知を発信しておりますが、ご投稿の到着を確認してください。
ご意見、ご提案、お叱りなどもお寄せください。

【次号予定、お願い】

次号は6月上旬に発行予定です。

ご投稿は5月21日(水)までにお願い致します。

【編集後記】

今号もご投稿をありがとうございました。

皆様どうぞお元気でお過ごしください。